

OHSTY

SUPER AREA MAGAZINE for EXECUTIVE

2004 Vol. 11

NTTドコモ中国 法人営業部

小松電機産業株式会社
代表取締役

小松 昭夫さん



自然とテクノの融合

ビジネス・フロンティアを拓く人



グッド・パートナーシップ

リモート
モニタリングによる
安全で効率的な
店舗運営が可能に

有限会社葡萄家

ライブカメラ

「AirView」導入で

新着Docomo

FOMAの画像をより大きく、有効に生かして
ビジネスを活性化してくれる

『Viewer Port』
テレビ中継車並の画像送信を
可能にする小さな巨人

『イージーライブII』
業務効率化の基本、情報共有を
手軽に簡単に実現する

『COCOA』
高度なビジュアルソリューションを
ラクラクこなす

『900ーシリーズ』



現金不要、カードも不要。
モバイル電子マネー時代がやってくる。

21世紀型
マルチツール
が動き出す。



りゅうじん流トレンド・スクロール21
"ロマン"と"ソロバン"

NTT
DoCoMo

自然と テクノロジーの融合

小松電機産業株式会社 代表取締役 小松昭夫さん



凡人を煙に巻くような話しつぶりは、禅の導師か、哲学者か。
農機メーカーの技術者としての成功の後に

待っていたのは、どん底の生活。

しかし、そこから”覚醒“し、そして見事に”蘇生“した。

科学技術と自然、環境とビジネスの垣根を軽々と飛び越えて、
経営も、人生も、おもしろくなっちゃと、聞く人をまた煙に巻く。

小松昭夫氏 プロフィール

小松電機産業株式会社代表取締役、財団法人人間自然科学研究所理事長。

1944年、島根県八束郡八雲村で生まれる。

1963年、島根県立松江工業高等学校機械科卒業後、佐藤造機株式会社に入社。

農業機械の設計に従事するが、1971年、会社の経営不振に伴い退社。

1973年、「小松産業」設立。実弟光雄氏（現副社長）とポンプ修理業を開業。

1985年にシートシャッター「門番」を開発、1992年に上下水道自動制御・監視システム

「やくも水神」を発表し、事業をさらに拡大。

1994年、人間自然科学研究所設立。より良い人生と地域社会の創造にも取り組む。

中国との経済文化交流にも力を入れており、2001年、孔子文化大学客員教授に就任。

2002年、山東省棗莊市經濟貿易促進中心日本代表に就任。

優秀経営者顕彰地域社会貢献者賞（1992年）など多くの賞も受賞している。



「この世の中でたしかなことは、必ず死ぬということ。どう生きるかということは、どのように死にたいか」と同義語です。“ああ、おもしろかった。楽しめた、それじゃあ、サヨナラ”と言つてコロッと死ねれば本望（笑）」
26歳のとき、勤めていた農機メーカーが倒産。急成長した上場企業だったが、ひとつの市場に固執するあまり、多角化・グローバル化が遅れた。トランスマッシュションや油圧機器の設計を次々に手がけ、若くして成功体験も味わった矢先だった。それから小松電機を創業するまでの2年間は悪戦苦闘で、ホームレス同然の生活をしていたという証言もある。

―― 大変な経験をされましたね。

「会社が生きるためにには目先の利益を考えて、短

く。どう生きるかということは、必ず死ぬこと。どう生きるかは、どう死ぬかと同じこと。死にたいか」と同義語です。“ああ、おもしろかった。楽しめた、それじゃあ、サヨナラ”と言つてコロッと死ねれば本望（笑）」
26歳のとき、勤めていた農機メーカーが倒産。急成長した上場企業だったが、ひとつの市場に固執するあまり、多角化・グローバル化が遅れた。トランスマッシュションや油圧機器の設計を次々に手がけ、若くして成功体験も味わった矢先だった。それから小松電機を創業するまでの2年間は悪戦苦闘で、ホームレス同然の生活をしていたという証言もある。

―― 大変な経験をされましたね。

「会社が生きるためにには目先の利益を考えて、短

たのしくゆかいに死生観。

誤解を恐れずにいえば、社長らしからぬ社長だ。

経営理念は“おもしろおかしく楽しく愉快に”。それでいて中小企業研究センター賞やニュービジネス大賞など数々の賞を受賞。10年前、自らシンクタンク、人間自然科学研究所を設立して、理事長を務める。インタビューも、さながら禅問答のよう。

―― “おもしろおかしく楽しく愉快に”が経営理念とは意外性がありますね。

「この世の中でたしかなことは、必ず死ぬこと。どう生きるかは、どう死ぬかと同じこと。死にたいか」と同義語です。“ああ、おもしろかった。楽しめた、それじゃあ、サヨナラ”と言つてコロッと死ねれば本望（笑）」
26歳のとき、勤めていた農機メーカーが倒産。急成長した上場企業だったが、ひとつの市場に固執するあまり、多角化・グローバル化が遅れた。トランスマッシュションや油圧機器の設計を次々に手がけ、若くして成功体験も味わった矢先だった。それから小松電機を創業するまでの2年間は悪戦苦闘で、ホームレス同然の生活をしていたという証言もある。

―― 大変な経験をされましたね。

「会社が生きるためにには目先の利益を考えて、短

く。どう生きるかということは、必ず死ぬこと。どう生きるかは、どう死ぬかと同じこと。死にたいか」と同義語です。“ああ、おもしろかった。楽しめた、それじゃあ、サヨナラ”と言つてコロッと死ねれば本望（笑）」
26歳のとき、勤めていた農機メーカーが倒産。急成長した上場企業だったが、ひとつの市場に固執するあまり、多角化・グローバル化が遅れた。トランスマッシュションや油圧機器の設計を次々に手がけ、若くして成功体験も味わった矢先だった。それから小松電機を創業するまでの2年間は悪戦苦闘で、ホームレス同然の生活をしていたという証言もある。

―― 大変な経験をされましたね。

「会社が生きるためにには目先の利益を考えて、短

事業家への入り口“。

話を聞いていると、さまざまなキーワードが飛び出す。たとえば環境・健康・平和。なかでも異色なのが“覚醒”や“蘇生”。

―― どういう意味でしようか？

「たとえば――将棋の名人になるには、名人になるための入り口がある、という。若くしてなる人も年齢を重ねてなる人も、必ずその入り口を通つてくる、と。そのポイントに立てば、スッと名人になるとい

うんですね。年齢による時間差はほとんどない。つまり、人生を山登りにたどると、多くの人が山の頂上につながる道に入らずに、断崖絶壁へ行つたり、ジャングルの中へ入つたり、グルグル迷つているんだと

いうことで、あらゆる道がそうだと思う」

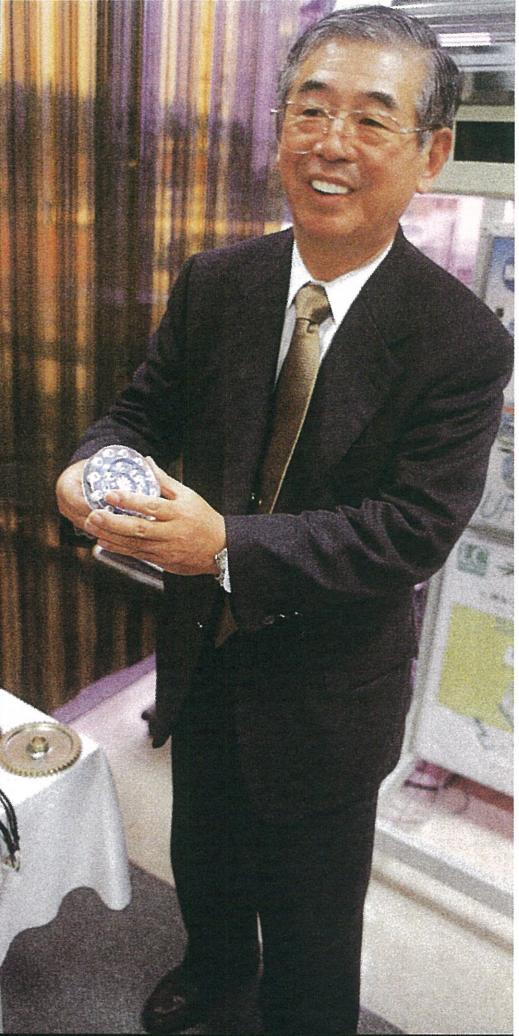
20歳のころ、創造工学という学問に出会う。簡単にいうと、「考へても仕方がないことと、仕方があること」を追求する概念だといふ。

―― ううん？？？ どういうことでしょうか？

「日本の産業機械はほとんど欧米から来たものですが、農業機械は数少ない例外のひとつ。稲作用の機械は西洋にありません。つまり、稲作という、東洋の自然依存型の産業に、工科系工学系の技術を導入しているわけです。こうした自然とテクノロジーの融合には、ある種のひらめき、想像力をたくま

時に長期的、多面的、根源的に事業を見つめなければいけない。いきなりどん底に落ちるという経験によって、物事を死から考えるようになりましたが、じやあ俺の死生観は？と1ヶ月座禅を組んだけれども、結局わからなかつた。でも、何故わからないかがわかつた。それは簡単な話で、自分が何歳まで生きるかがわからないから（笑）。人生の計画を立てようがないんですよ」





しくすることが必要なんです」

自然とテクノロジーの融合技術——これが小松さんの事業家への「入り口」。すなわち「覚醒」だったに違いない。

シアノバクテリアからの覚醒。

小松電機の「覚醒」はズバリ、環境への取り組みだ。主力商品の排水処理自動制御システム「やくも水神」は、ITを駆使して安全な上水道を供給し、他方、使った水を低コストでもとの状態に戻そう、という発想から生まれた。

「環境がいまどうなっているのか。環境のなかで人類は生き延びている。環境をキチッと捉えなければいけない。人類が生存するのに水は欠かすことはできませんが、日本に限らず、世界中で水の汚染が進んでいます。島根県には宍道湖、中海という2つの湖がありますが、これらも例外ではなく、かつてのように住民が泳ぐことはないし、シジミやアマサギ、シラウオ、そしてゴズまでも激減している」しかし、小松電機はユニークな発想で「水」を捉えている。湖の魚はヘドロが原因でたくさん死ぬが、へ



ネットワークシステムの開発で商品力をさらに強化

小松電機の『やくも水神』は、上下水道自動制御・監視システム。管理責任者である市町村役場と中継ポンプ場や末端の処理施設をつないで、管理者が施設や装置のデータを常時掌握し、問題が生じた場合、発生地点からのデータ情報によって迅速かつ的確に対応できるよう開発された。以前は、処理施設ごとに管理者を置くか、頻繁に巡回する必要があり、コストや要員確保の負担が大きかったが、『やくも水神』はそうした負担を軽くし、今や国内各所の自治体に導入されている。

2000年にNTTドコモと共同でiモード・インターネット対応『新水神ネットワーク』を開発したことでの『やくも水神』はさらに進化した。

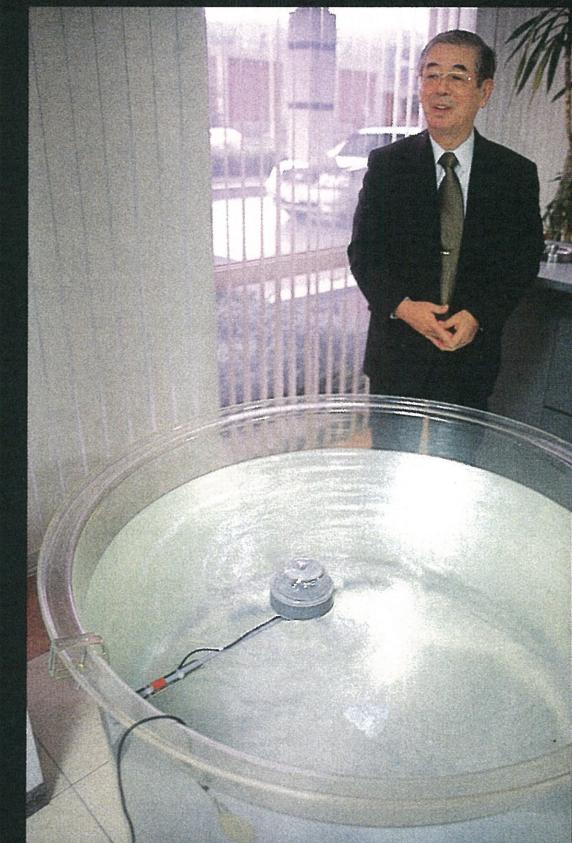
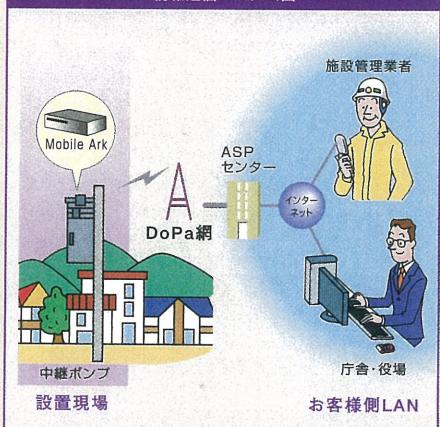
「携帯電話にiモードで通報メールが届くようになり、施設管理者はどこにいても、問題の原因や状況を正確に把握できます。そのため、不便な場所にある上下水道施設でも、素早い対応が可能になりました」と製品への自信を語る小松社長。

「現場機器の遠隔操作もiモードができるため、正確に素早くトラブルを解決できると好評です」

DoPa網を利用した無線通信の採用で、低成本はもちろん、機器のメンテナンスや入れ替えも不要で、管理効率が飛躍的に高まった。

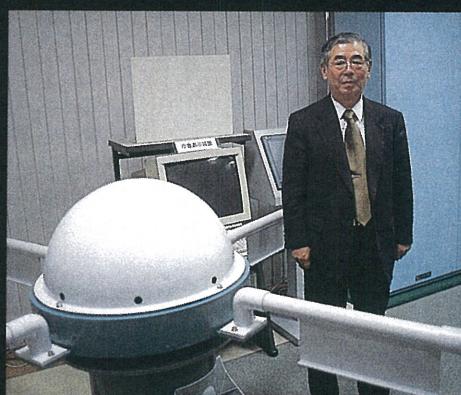
「これからも、安全で豊かな水を守り、環境保全に役立つシステムの開発、ITの利用に積極的に取り組んでいきたい」と小松社長の表情は輝く。

上下水道遠隔監視・制御システム「新水神ネットワーク」
情報通信システム図



ドロの湖は逆に栄養が豊富だという論だ。その有効利用を目的に、数十億年前の原始の地球に生まれた、人類の遠い祖先であるシアノバクテリアによって回帰して、研究を進めている。「ヘドロは汚れているように見えますが、実は栄養過多。つまり未使用の資源が豊富なのです。これを有効活用しない手はない。活用するには、”知す”

なむち科学、テクノロジーが必要です。そのためにはシアノバクテリア以来、人類が遺伝子に書き伝えている暗号と、いまわれわれが持っているテクノロジーを組み合わせ、ひらめきにより生まれたニューサイエンス、新たな発明・発見につなげる。その文化を普遍化したい」とキッパリ。汚れた湖は最大の資源と明言する小松さんの「覚醒」が、環境事業化への気概を支えている。



小松電機産業株式会社

1973年、小松産業として創業。
1975年、給水施設用自動制御計装システムの開発に着手。
1985年、高速シートシャッター「門番」を開発、全国展開開始。
1992年、上下水道自動制御・監視システム「やくも水神」開発、発表。
1994年、人間自然科学(HNS)研究所設立。
1998年、松江湖南テクノパークに新社屋および研究棟、工場棟を建設。
2000年、IT時代の上・下水道管理システム「新水神ネットワークシステム」開発。現在、「門番」はシートシャッターの国内シェア60%と業界トップ。0からスタートしたその業績で中小企業研究センター賞(1990年)とニュービジネス大賞(1991年)を、「やくも水神」の水処理技術で科学技術庁第54回注目発明選定証(1995年)を受賞。
HNS研究所の出版やシンポジウム、セミナー開催など一連の活動でも地域活性化貢献企業賞(1996年)を受賞。独自の視点と優れた研究・開発力で、21世紀型産業創造を推進している。

所在地	島根県松江市乃木福富町735-188 松江湖南テクノパーク内
創業	1973年
資本金	1億円
従業員数	86名
売上高	32億円